

本資料では、Brava Desktop および Brava Desktop Light (以下、Brava Desktop) のライセンス管理形態について説明します。

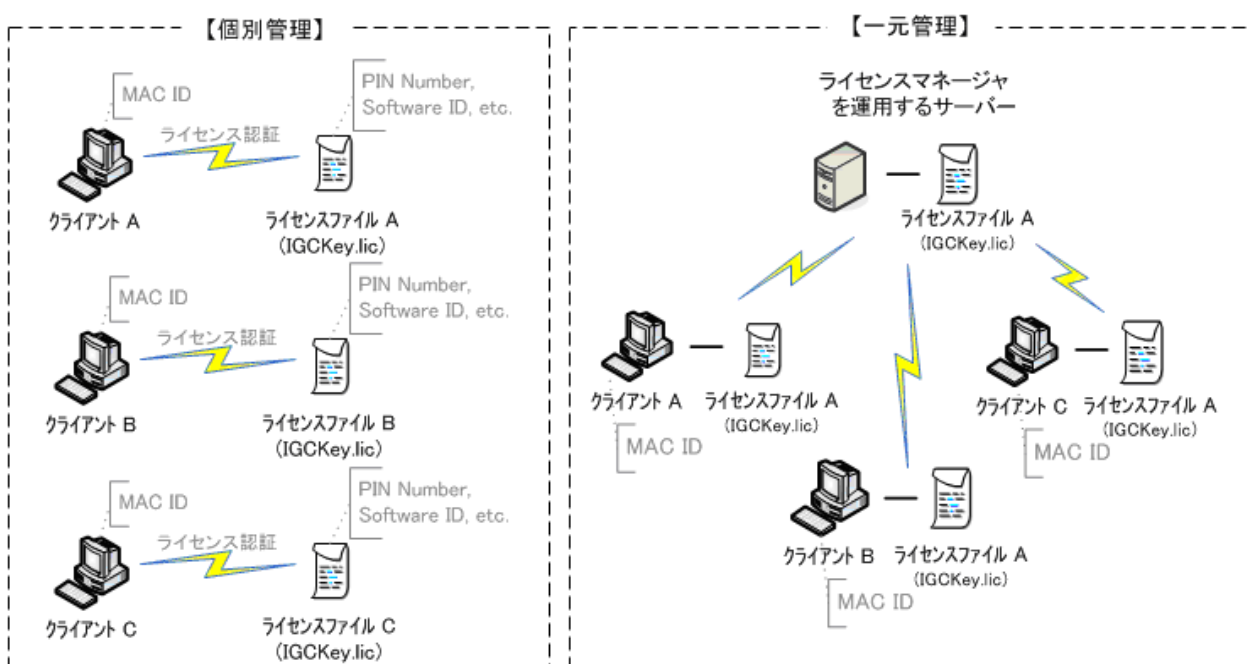
本資料は、以下のバージョンを使用する場合に関する技術資料です。

- ・ Brava Desktop 7.0 / Brava Desktop 2.3
- ・ Lincense Manager 1.0

Brava Desktop を利用するには、下記のいずれかの方式によるライセンスの認証と管理が必要です。

【ライセンス認証・管理方法】

- 個別管理 (個別ライセンス。1 台につき 1 ライセンスを適用し、PC 個別に管理する)
- 一元管理 (ネットワークライセンス。ライセンスマネージャを使用してサーバーで一括管理する)



個別管理は、1ライセンス(一本単位)から購入する場合は該当します。PC1 台ごとにライセンスファイルの発行処理及び適用処理が必要となるため、導入ライセンス数が少ない場合や、インストール先のクライアント PC がネットワーク接続環境にない場合の運用に適しています。

一元管理は、「ライセンスマネージャ」を使用し、購入した複数ライセンスを管理する場合は該当します。導入規模が大きく各クライアント PC がネットワークに常時接続可能な場合は、ネットワークライセンスでの一元管理が運用に適しています。(次ページの表参照)

	発行ライセンス本数	ネットワーク接続	導入規模
個別管理	クライアント PC 台数分	不要 ^{※1}	小規模向き
一元管理	1 本	要	大規模向き

※1 インストール時にライセンス認証を行う場合はネットワーク接続が必要です。インストール対象の PC がネットワーク接続環境にない場合、事前にライセンスファイルを発行しておくことで認証処理に対応できます。

個別ライセンスで導入した場合とネットワークライセンスで導入した場合では、ソフトウェア使用前に必要なライセンスファイルの発行方法や管理方法、認証方法などが違います。

● 個別管理（個別ライセンス）

➤ ライセンスの発行および管理

個別管理の場合、Brava Desktop の購入数と同数のライセンスが発行されます。各ライセンスの適用状況（各ライセンスファイルの Software ID および PIN Number、インストール対象 PC の関連付け情報）については、お客様側で管理する必要があります。

➤ ライセンス認証

Brava Desktop のライセンス認証方法は、大きく分けて次の二通りございます。

- (a) 製品インストール時にインターネット経由で自動的に認証（アクティベーション）処理する方法
- (b) 事前にライセンス管理サイトで認証処理を済ませてライセンスファイルを取得・適用する方法

(a)のインストール時に自動認証する方法を選択した場合は、開発元が運用しているライセンス管理サーバーと Brava Desktop のインストール対象 PC に対してインストール先 PC の MAC アドレス（物理アドレス）がインターネット経由で登録されます。

また、Brava Desktop をインストールする PC がインターネット非接続環境だったり、個別のプログラムからのインターネット接続が制限されていて自動認証ができない環境だったりする場合は、(b)のメールによる認証済みライセンスの発行処理またはお客様自らライセンス管理サイトにログインし、手動でライセンス発行処理を行います。詳細については、下記の「認証済みライセンスの発行」を参照してください。

Brava Desktop をインストールした PC の故障やハードウェア入れ替えなどにより、ライセンスを移行する場合は、ライセンス再発行（認証）の手続きを行う必要があります。

➤ Brava Desktop の使用

プログラムのインストールおよびライセンス認証及び適用処理が完了すると、Brava Desktop を製品版として使用できます。ライセンス認証の完了後は、インターネットの接続環境は必要ありません。

➤ 認証済みライセンスの発行

インターネット経由で自動認証ができない PC へ Brava Desktop をインストールする場合、インターネット接続できる別の PC からライセンス管理サイトに手動でログインし、ライセンスファイルを発行す

ることができます。または、必要情報をサポート窓口まで連絡すれば、認証済みライセンスファイルをご用意いたします。別の PC へ Brava Desktop を入れ替える場合も本情報をお知らせいただければ対応いたします。※1

- PIN Number ※2
- 使用するバージョン
- 対象 PC の MAC アドレス ※3

※1 認証済みライセンスの再発行や依頼への対応は、保守契約を結んでいる期間のみお受けできます。

※2 製品納品時にお知らせする情報です。5 桁または 6 桁の数字です。

※3 MAC アドレス情報の確認方法 <http://www.bravaviewer.jp/products/desktop/spt/MACID.html>

● 一元管理（ネットワークライセンス）

複数ライセンスの一元管理を行うには、Brava Desktop の製品版ライセンスに加えて、ライセンス管理用プログラムの「ライセンスマネージャ」(有償オプション)の導入が前提となります。

ライセンスマネージャは、各クライアント PC から常時アクセスが可能な Windows PC 上(ライセンスサーバー)にて、Windows サービスとして稼働します。ネットワークライセンスの管理形態として、下記の 2 種類を用意しています。製品購入時に、どちらのネットワークライセンスを購入するか決めます。

(1) 「同時使用ライセンス」

不特定多数のユーザー間で、同時に使用できるユーザー数を限定したライセンスです。

(2) 「シート固定ライセンス」

PC1 台に対して 1 ライセンスを割り当て、購入したライセンス数分の PC で使用できます。

➤ ライセンスの発行および管理

本ライセンスの場合、ライセンスの購入数に関係無く、1ライセンスファイルを発行します。

ライセンスマネージャでのライセンスのインポート処理及び各クライアント PC への Brava Desktop インストールには、全て同じライセンスファイルを使用します。ライセンスの適用状況は、ライセンスマネージャにより自動的に管理されます。

➤ ライセンス認証

本ライセンスを Brava Desktop に適用したクライアント PC では、ライセンスマネージャに対する認証処理が初回使用時に実行されます。

「シート固定ライセンス」の場合、各クライアント PC の MAC アドレスがライセンスマネージャに登録され、2 回目以降の使用時には、その情報に基づいて、Brava Desktop の使用可否が判断されます。

購入したライセンス数以上の MAC アドレス情報はライセンスマネージャに対して登録できません。そのため、本上限の超過後にライセンスファイルを適用した PC では Brava Desktop を使用できません。ライセンス数の上限に達した場合は、ライセンスマネージャで登録済みの MAC アドレス情報を削除することで、新たな MAC アドレス情報を登録できます。

「同時使用ライセンス」の場合、Brava Desktop をインストールできる台数に上限はありません。購入したライセンス数の範囲内で Brava Desktop を同時に使用できます。ライセンスマネージャに接続したユーザー情報は該当ユーザーが Brava Desktop プログラムを終了すると削除されます。

➤ Brava Desktop の使用

ライセンスマネージャを導入した環境では、Brava Desktop 上でファイルを開く度にライセンスの確認が行われるため、各クライアント PC は常時ネットワークに接続されている必要があります。^{※1}

ファイルを一度開いた後は、別ファイルを開くまでライセンス確認処理は行われません。

^{※1} ライセンス発行時に登録したコンピュータ名または IP アドレスを使用してライセンス確認処理が行われます。したがって、本サーバー情報でライセンスマネージャ稼働サーバーに接続できない PC は Brava Desktop を使用できません。

➤ ライセンスの移行

ライセンスマネージャには各ライセンスの登録状況の確認やライセンスの認証対象を変更するための Windows プログラムが付属しているので、ライセンス管理の作業はお客様側で自由に行うことが可能です。

ライセンス管理の詳細な使用方法については、ライセンスマネージャのヘルプファイルを参照してください。

以上